

## 令和6年度 学校評価実施報告書（抄）

### 教育目標『自らの未来を拓く、心豊かで自立した生徒の育成 「自律」と「尊重』』

#### （1）「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

##### 重点目標

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善の推進

「総合育成支援教育」の視点に立った授業改善の推進

「総合的な学習の時間」の内容再構成と体系化

自己評価

##### 分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・国語/社会/数学/理科/英語の授業でT T授業を活用し、個に応じた指導を心掛ける。
- ・「自分の考えを根拠を基に発信する」「自分で手段を選択する」機会の確保ができていないと思われる。
- ・つけたい力/本校生徒の課題を基に取り組む「総合的な学習の時間」を目指し、質的転換を意識して取り組んでいる。
- ・小中連携（よんきゅうう縛プロジェクト、北野ブロック）で9年間を見据えた学力や生活向上の歩みを作成し、それに基づき、つけたい力を確認しながら授業を行っている。
- ・家庭学習時間が確保されていない生徒が多いことが分かる。
- ・後期学校評価アンケートの数値は肯定的回答が微減している。後期に入り、生徒が自己の生活や取組を振り返り目標を高くもち始めていることが分かる。
- ・大きな行事を終え、学校生活は落ち着きを取り戻している。授業へ向かう姿勢にも改善が見られるが、アンケート等による学習への意欲の高まりは未だ改善していないと見て取れる。

##### 分析を踏まえた取組の改善

- ・学校全体で授業改善の取組を行い職員研修や教科会をさらに充実させていく。
- ・言語活動を含んだ授業になっているのか、研究授業週間で教科を超えてお互いの授業を見合うなどの研修を重ねていく。
- ・タブレットを活用した授業内容（授業方法）を構築し、ミライシードの活用をしていく。
- ・次年度に向けて、テーマ「対話力の育成」を掲げ、学習・生徒指導両面から全体的に取り組む。
- ・今年度整理した総合的な学習の時間の内容をさらに改善していく。

#### （2）「豊かな心」の育成に向けて

##### 重点目標

1 多様性を正しく理解・認識し、互いを尊重し、共に成長し合う集団作りの推進

2 道徳教育の充実により、支え合い高め合う集団作りの推進

自己評価

##### 分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・教員が、日頃の取組の中で生徒理解に努め、生徒に寄り添う指導を意識している。授業や行事、生徒会活動等では、生徒の学校生活に潤いや秩序とリズム、変化を与える学びの機会や協働的な学びへ導く機会をできる限り作っている。
- ・S C / S S Wなどの専門職と連携して情報の共通理解と支援策を検討することができた。
- ・「しなやか道徳」の指定を受け、「道徳」について学ぶ機会を例年よりとることができた。
- ・「人権講演会」では、パラリンピックアスリートに来校してもらった。生徒が前のめりにお話を伺う姿勢を見せた。

- ・生徒による評価の数値は概ねよい数値となっている。特に行事の「縦割り取組」が「心の豊かさを高める」ことに大きく影響したと考えられる。

#### 分析を踏まえた取組の改善

- ・学校としての「付けたい資質・能力」の下で、授業に加え、取組や行事を企画推進していくことを丁寧に行いたい。
- ・教科授業はもちろん、道徳や総合的な学習の時間等の質的改善を進めていきたい。
- ・S S W / S Cなどの専門職と連携を密にすることを継続する。
- ・S N S 上でのトラブルがあった。不用意な発信等により、他者を傷つけることがないよう、さらに啓発していく。
- ・S N S 上での性的被害等から子どもを守るため、正しい判断力を身に付けさせる。
- ・すべての活動を通して、自己有用感をもてるような場面を考えていく。
- ・次年度は学習指導部と生徒指導部でともに「対話力」をテーマに取組を進めていく。
- ・生徒の自己指導力を育てる意識を教職員間に醸成したい。

### (3) 「健やかな体」の育成に向けて

#### 重点目標

自らの健康、保持増進を図り、望ましい生活習慣を実践できる資質の育成

自己評価

#### 分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・「早寝早起き」ができていないという自覚のある生徒は全校の半数以上であり、携帯電話・スマートフォン等の使用に時間が取られていると思われる。また、使用状況や規範意識の醸成については、家庭での認識と学校での様子がずれていることも見て取れる。
- ・前期に比べての大きな改善は数値に表れていない。
- ・生徒間でS N S のトラブルがあったが丁寧に対応している。今後も未然の指導と、起きてからの対応の両方を重ねていく。
- ・部活動ガイドライン等に基づき、適切な休養日や活動時間を設けて活動に取り組んでいる。
- ・H A N A モデル研修には全教職員が積極的に取り組んだ。

#### 分析を踏まえた取組の改善

- ・避難訓練や非行防止教室、携帯教室、防煙教室等に計画的に取り組んでいるが、「自分事として」捉え、考えさせる指導にするため、授業や取組改善に努めたい。
- ・健康指導に関する取組を継続して行う。
- ・保護者に向けての発信に努める。

### (4) 学校独自の取組

#### 重点目標

未来を拓き しなやかに生きる子どもの育成

#### 具体的な取組

- 1 【よんきゅう縦プロジェクト】として、4中9小（北野中・朱雀中・中京中・西ノ京中・大将軍小・仁和小・洛中小・朱一小・朱二小・朱四小・朱六小・朱七小・朱八小）で小中一貫教育に取り組む。【校長会】を中心に【教頭会】【教務主任会】【学力向上部会】【生活向上部会】【学校事務部会】の各分野で小中一貫教育の推進を行う。
- 2 北野中学校ブロック（北野中・仁和小・大将軍小）における連携強化。

5月	小中一貫協議会〔小中一貫年間行事予定・小中一貫教育構想図・合同研修会のもち方・他〕
6月	旧6年生担当との交流会〔授業参観・情報交換〕
8月	よんきゅう縛プロジェクト研修会
9月	【中学校を知ろう！ふれあい探検 IN KITANO】(新入生学校紹介、授業体験)
11月	北野中学ブロック研究授業(北野中学校)(大将軍小学校:仁和小学校)、中学校入学説明会
12月	「人権標語」の交流(地域生徒指導連絡協議会とのタイアップ)

自己評価	<b>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価アンケート(生徒対象)の学校生活に関わる項目では、「学習することは好きだ」の48.9P以外はおおむね肯定的回答が高い。 自分自身に関わる項目でも「自分にはよいところがある」75.8P「将来の夢や目標がある」73.4P等好結果が出ている。ただし、学校評価アンケートと同内容の「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標がある」項目は、全国学力学習状況調査質問紙では全国平均を下回る。</li> <li>学校評価アンケート(生徒対象)の「地域の行事に参加している」は5割程度の回答にとどまるが、「地域の人に積極的に挨拶している」の回答は7割を超える。</li> <li>全国学力学習状況調査質問紙では、「地域や社会をよくするために何かしてみたい」「人の役に立つ人間になりたい」の肯定的回答は全国平均を上回る。</li> <li>夏季研修の全体会は集合で行い、よんきゅうの取組の意義を確認できた。その後、中学校ブロックで道徳をテーマとする研修では授業改善に向けての協議を行うことができた。単発な取組とせず、継続していく必要がある。</li> <li>生徒たちは地域とつながりながら生活しており、その自覚をもっていることが見て取れる。</li> <li>小中の研究スタイルには違いも大きく、全教職員が自分事として小中一貫教育を捉えられていない実態がある。</li> </ul>
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>よんきゅうで行う小中一貫教育の意義が薄れてきているので、全体会を充実させる。</li> <li>ブロックで各校研究を共有、テーマを「対話力」と据える。</li> <li>次年度は道徳に加え、総合的な学習の時間についても取り組む。</li> </ul>

## (5) 教職員の働き方改革について

自己評価	<b>重点目標</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員一人一人が勤務時間を意識し、子どもと向き合う時間を十分に確保する。</li> <li>部活動のガイドラインや基本方針を遵守し、さらに効率的に活動する。</li> </ul>
	<b>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度より職朝を原則なくし、勤務時間を下げて8時25分～16時55分に変更、朝に余裕が生まれた教職員が多い。</li> <li>今年度から退勤時刻は毎日19時に変更している。生徒指導や行事前、テスト前と言った時期等によって実際には19時退勤は達成できていないと言える。</li> <li>会議を行う日は、5時間授業・部活動停止としたことで、放課後に事務作業に集中し、退勤時間を早めることができている。</li> <li>電話応対時間は18時までとしている。保護者の中には共働き等でそれまでに対応できない家庭もあるのが現実で、受け止め方は様々だが丁寧に対応していくことが必要である。</li> </ul>

- ・すぐ一語を活用することにより、朝の電話対応が少なくなった。打ち合わせがスムーズに行えるようになった。
- ・G I G Aスクール構想による授業の手法や採点ソフトの研修などを行い、活用できる教員が増えつつある。採点ソフトを活用する職員が増えた。

#### 分析を踏まえた取組の改善

- ・働き方改革と銘打った研修は行なえていない。行事等の精選だけでなく、意識の観点から働き方を変えられるよう、管理職発信に努めたい。
- ・職員室の閉錠 19 時に加え、月一回程度の 18 時退勤日などの設定を検討する。また、次年度は閉錠に加え、閉錠の時刻を設定する。
- ・留守番電話 18 時設定の見直しを図る。
- ・業務削減、行事や取組の見直しも行う。

### (6) いじめの防止等についての取組に向けて

#### 重点目標

些細な事案も見逃さず、迅速かつ的確に組織的な指導を行い、子供の命を守りきる。

自己評価

#### 分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・後期学校評価アンケート「学校は生徒一人一人を大切にした教育活動をしている」の項目(学校評価(教職員))に関して、肯定的な回答が 100% (+15.4) であった。
- また、(生徒対象) の「学校は楽しい」の項目(学校評価(生徒))に関して、「あてはまる 90.9%」(-3.5) 「あてはまらない 9.1%」(-3.5) であった。
- ・後期学校評価アンケート（生徒対象）では、「いじめ対策委員会があることを知っている」の 83.1P (+0.6)、(保護者対象) 77.1P (+3.5) という結果であった。
- ・いじめ案件や補導案件については、早期に把握し、丁寧に対応を行っている。
- ・学年で対策を練るだけでなく、全体化して対応を考えることができた案件が複数ある。
- ・係を中心に「報連相」の体制は一定取れている。しかし、1割程度の教職員は不十分であると考えている。

#### 分析を踏まえた取組の改善

- ・校内でのトラブル防止・早期発見に向け、休み時間や昼休みの全教職員による丁寧な生徒観察を継続していく。
- ・支援を要する生徒の特性をしっかりと理解し対応する必要がある。
- ・職員会議、学年会での係からの発信を丁寧に行う。